

千葉市議会議員(若葉区選出)

秋山あたる

未来立憲民主ちば会派



mail : info@akiyama-ataru.com
web : https://akiyama-ataru.com

秋山あたる



発行元：秋山あたる後援会
〒264-0005
千葉市若葉区千城台北3-3-10 シティハイムチシロ 102
電話番号 050-1065-5394

政策・理念 教育・文化

私は、若葉区をより豊かな街にするための3つの政策「生活・地域」、「教育・文化」、「福祉・健康・安全」、+α「SDGsの普及・推進」を掲げています。

「教育・文化」ースポーツ、芸術を通じて人が集うまちづくり!

少子超高齢化・核家族化の進行や、ライフスタイル・価値観の多様化などに伴い、家族や身近な地域における交流や、支えあいの機能が弱くなっています。

誰もが自由に交流できる「スポーツ・芸術・文化のまち」づくりを掲げ、子どもから高齢者が施設・クラブハウスの活動拠点へ

集まり、無理なく日常的に各種スポーツ、パラスポーツ、芸術、文化・絵画・工芸・工房・窯などアート、農業・酪農体験等を楽しむこと(教室・イベント・講習会などで質の高い指導が受けれる)ができるコミュニティの醸成を目指します。

市議会議員活動をより多くの方に知って頂き、私個人のみならず千葉市議会への信頼と期待を頂けるよう市議会報告してまいります。

ご意見や感想をお待ちしております。誰もがわかりやすい市政に努めてまいります。地域のために小さなことでもお気軽に声をかけて頂けたらと思います。

秋山あたる

千葉市議会で一般質問をしました。

01 子どもの福祉について 令和3年

全国の児童虐待相談対応件数の数値は、直近の3年間で、平成30年は15万9,838件、令和元年19万3,780件、令和2年20万5,044件と、過去3年を見ても急激に上がっています。千葉市は、平成30年1,513件、令和元年1,654件、令和2年1,766件となり、対応件数は常に右肩上がりの状況です。

国は、児童虐待相談に対する細やかな支援を行うとともに、児童相談所におけるハイリスク案件への重点化を可能とするため、令和4年までに、全国各市町村で「子ども家庭総合支援拠点」の設置を目標にしています。

秋山あたるの提言

提言1：地域で子供たちが集まりやすいプレーパークや子ども食堂なども拠点の一つとして周知、連携を図る。

提言2：子供家庭総合支援拠点について、地域により近い児童

第4回千葉市議会定例会・一般質問

相談所としての機能を十分に発揮するため、専門人材の配置、心理担当支援員を常時配置する。

提言3：各地域での児童虐待相談対応件数に応じて人員を増員し、子ども家庭総合支援拠点をより強化する。

令和4年4月より千葉市は、児童虐待対応体制を強化することとなりました。

1. 児童相談所の2所化
現施設内で東部児童相談及び西部児童相談所の2所体制
2. 子ども家庭総合支援拠点の整備
「子ども家庭総合支援拠点」の業務を中央区で新たに実施
3. 児童虐待対策強化に対応するため、職員を当初計画より50人程度の増員することとなりました。



秋山あたるプロフィール



1991年10月9日生まれ 千葉市出身
2004年 千葉市立更科小学校卒業
2007年 千葉市立更科中学校卒業
2009年 アメリカ・シルバード公立高校交換留学
2011年 千葉県立千城台高等学校卒業
2013年 ワタナベエンターテイメントカレッジ卒業
2019年 千葉市議会議員選挙(若葉区選出)
27歳で初当選 4,321票

2019年度 保健消防委員会
2020年度 総務委員会 環境審議会委員
2021年度 都市建設委員会 都市計画審議会委員
広報委員会委員
2022年度 環境経済委員会 副委員長
【その他】
舞台・朗読劇で松方弘樹氏や若林豪氏と共演
千葉県テニス選手権・ダブルス 優勝

02 人生100年時代 高齢者福祉について

令和2年 第4回千葉市議会定例会・一般質問

千葉市の65歳以上の高齢者は252千人と全年齢人口の26.0%を占め、2055年には38.8%の方が高齢者となり、超高齢化社会を迎えます。2025年には、団塊の世代が75歳以上となり、国民の医療や介護の需要が、さらに増加します。

厚生労働省は、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援／サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。

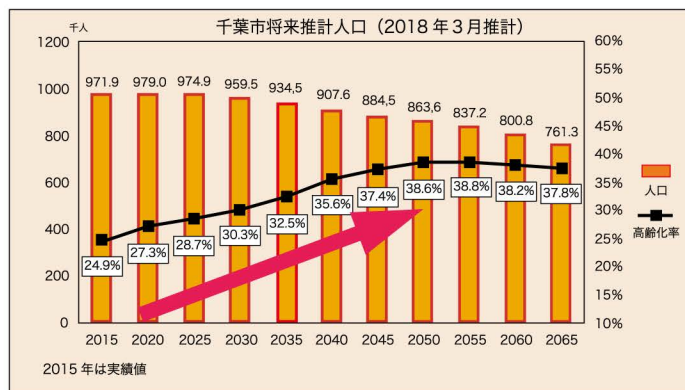
千葉市においても単身高齢者や高齢者のみの世帯の増加に伴い、地域における介護、医療の提供がますます重要視される反面、地域での介護が限界になっている状況がうかがえます。

介護職員不足は危機的状況・・・

2025年度には全国で245万人の介護職員数が必要となり、千葉市では、約4500人の介護職員不足が見込まれます。介護職員不足によるサービス低下や労働環境の悪化による離職率の上昇、経営状態の悪化が危惧されています。

秋山あたるからの提言

介護職員不足対策のため、千葉県では、若者や留学生に介護の魅力、やりがいを伝え、福祉介護職の就業促進につなげる、介護の未来案内人事業、外国人介護人材支援センターを運営し、就業促進事業を行っています。また、千葉市は、千葉県福祉人材確保・定着推進協議会



を設置、意見交換を行っています。

介護職を目指す外国人留学生の課題として言語・文化の違いがあります。介護職の専門用語の習得や、高齢者とのコミュニケーションをとれるようになるためには、数年にわたり日本語教室を受講出来る環境の整備が必要です。以下3点の提言をしました。

- ① 交通費の補助、日本語教師の派遣など環境の整備
- ② 介護ロボットの普及促進、ICTの活用
- ③ 離職対策

介護職の離職率が高く、離職防止対策が必要です。特に若手介護職員のモチベーションを高めたり絆を深めるような交流会を継続的に開催するなどの施策への取組みを要望しました。

03 インクルーシブ教育について

令和3年 第2回千葉市議会定例会・一般質問

インクルーシブ教育とは、様々な状況の人たちが一緒に教育を受けることで、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会を目指すことです。千葉市は、特別支援学級を急激に増やしてきましたが、特別支援学級における担任の正規教員が78.1%と、残りは21.9%が講師であり、特別支援学級を担任している教員が特別支援学校教諭免許状を保有している割合が約55.3%と半数です。今は、担任のなり手がなく、非正規や無免許の教員を担任に充てるしかない状況があります。

秋山あたるの提言

特別支援学級の専門性がある担任不足の解決策として以下3点を提言しました。

- ① 教員への免許法認定講習の拡充。
- ② 千葉市教育委員会には、特別支援教育枠で新規採用された教員を千葉市に限っては、1年目から中学校特別支援学級での勤務を認めることを協議すること。
- ③ 市内の関係大学との連携
特別支援教員養成課程を持つ大学関係者を招集し、協力を求める連絡協議会を設置すること。

秋山あたる後援会より

ご支援・ご協力をお願い

秋山あたるは、「若葉区を千葉市を誰もが住んでよかった!」と感じるまちづくりを目指しています。

秋山あたるを応援いただける方は、

右記「秋山あたる公式サイト・サポーター登録」へのQRのリンクから登録、または事務所までご連絡していただき、ご意見やコメントをお寄せください。



「幹を強くする千の葉の会」

千葉県知事熊谷俊人氏と連携する市町村議員が新たなネットワークで千葉県の特徴を活かし、更に伸ばしていくことを目指す団体です。秋山あたるは事務局の中心として積極的に参加しています。

